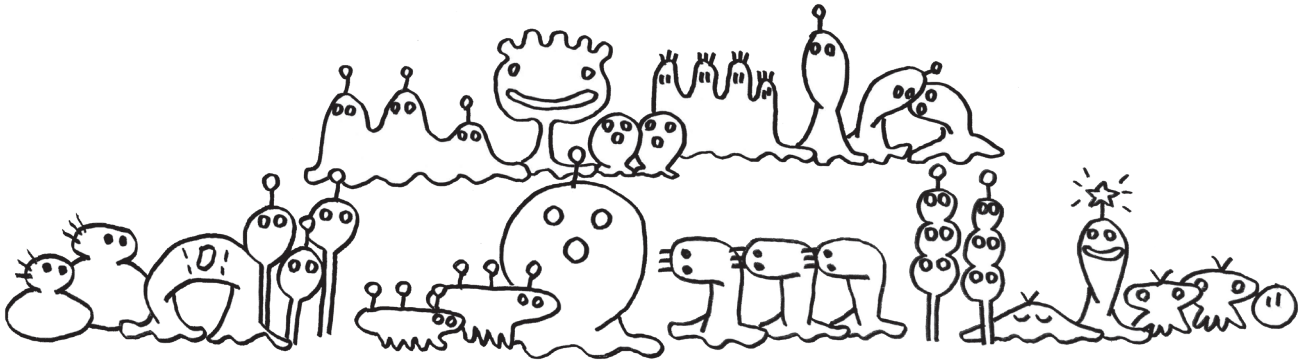




特集

ACW2の活動の報告と、会員の方々の声をおとどけします



もくじ

- 
- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 02   2021年の「はたらく女性の全国ホットライン」の相談状況報告             | 13   フリーライターAさんの裁判が大詰め             |
| 06   定期大会 予告                                    | 14   「子ども手当てを、生んだ女性が受け取れる仕組みに」変えよう |
| 07   相談者の話を聞くことを大切にする                           | 15   「負けるは恥だが、役に立つ？」               |
| 08   ホットライン<br>小グループ活動の連絡先                      | 17   映画と本の楽しみ方？                    |
| 09   事務グループの活動を紹介します♪                           | 20   素の自分で                         |
| 10   かもすワークショップに参加して<br>小グループのための『かもすワークショップ』報告 | 21   活動報告                          |
| 12   “はむねっと” 試行錯誤で進めています                        | 22   ひとことメッセージ                     |
|   | 24   編集後記                          |

# 2021年の「はたらく女性の全国ホットライン」の相談状況報告

「はたらく女性の全国ホットライン」は、現在、ACW2（東京）、おんなのユニオン・にいがた（新潟）、働く女性の人権センター・いこる（大阪）、ワーキング・ウイメンズ・ヴォイス（福岡）の4つの団体のメンバーが担当をしている。

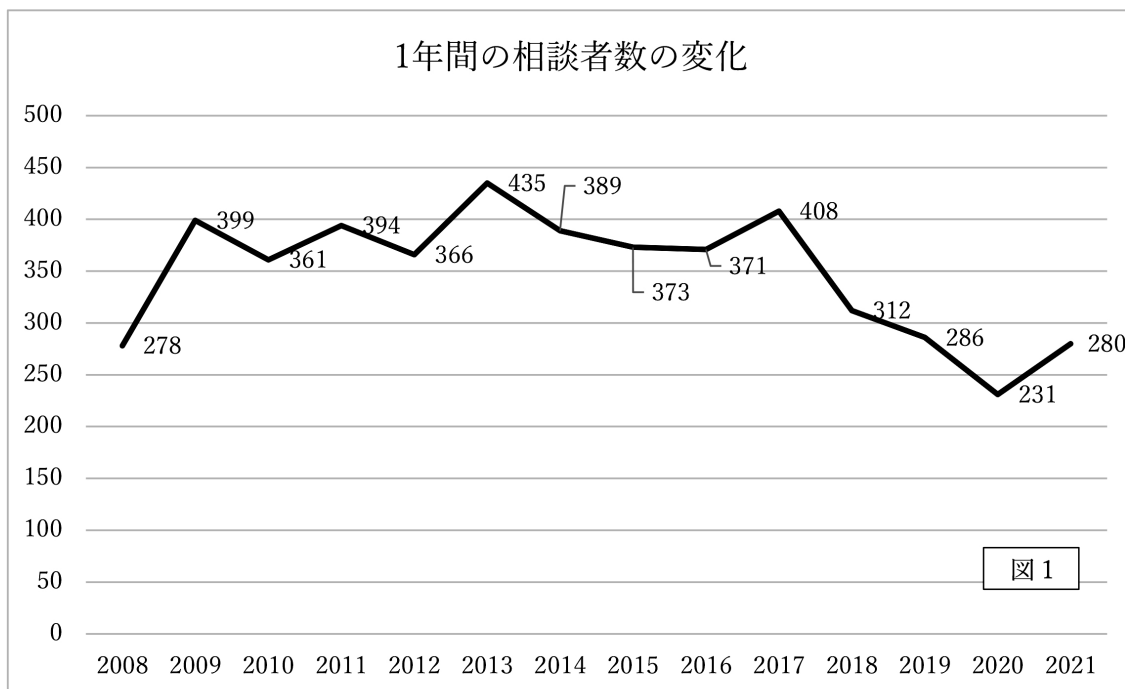
2021年1月1日～12月31日は、毎月、5と0のつく日と第2・4日曜日に実施し、相談件数は280件であった。

「はたらく女性の全国ホットライン」は2007年11月からスタートした。

2008年からの毎年の1年間のホットラインの相談件数の変化は下記のとおりである。2013年の435件を最高にそれ以降は、若干相談件数は減少傾向にあった。

2020年に相談件数が231件と特に減少したのは、「はたらく女性の全国センター」の経済状況から、一時期ホットラインの回線を1回線にせざる得なかったことも影響している。

詳細については、ACW2の定期大会で報告するので、是非ご参加ください。

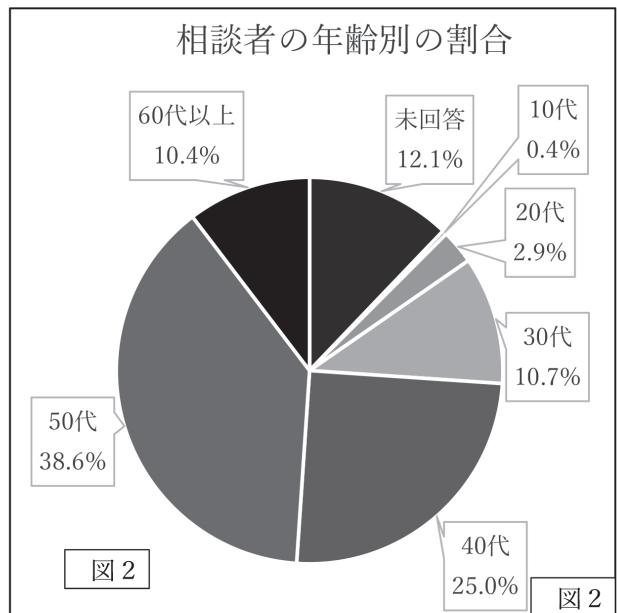


### (1) 相談者の年齢

表1は相談者の年齢層の人数とその割合である。50代が最も多く106人で、8.6%で、2番目に多かったのは40代の70人で25.0%であり、40歳代以上で、全体の相談者数の7割以上を占めている。

| 年齢    | 人数  | 割合    |
|-------|-----|-------|
| 未回答   | 34  | 12.1% |
| 10代   | 1   | 0.4%  |
| 20代   | 8   | 2.9%  |
| 30代   | 30  | 10.7% |
| 40代   | 70  | 25.0% |
| 50代   | 108 | 38.6% |
| 60代以上 | 29  | 10.4% |
| 合計    | 280 | 100%  |

表 1



### (2) 相談者の雇用形態

| 雇用形態     | 人数  | 割合     | 人数  |    |
|----------|-----|--------|-----|----|
| 未回答      | 37  | 13.2%  | 37  |    |
| 正社員      | 38  | 13.6%  | 42  |    |
| 正公務員     | 4   | 1.4%   |     |    |
| 短時間パート   | 33  | 11.8%  |     |    |
| フルタイムパート | 33  | 11.8%  |     |    |
| 契約社員     | 15  | 5.4%   |     |    |
| 登録派遣     | 9   | 3.2%   |     |    |
| 常用派遣     | 5   | 1.8%   |     |    |
| 日雇い派遣    | 2   | 0.7%   |     |    |
| 請負・委任・委託 | 2   | 0.7%   |     |    |
| アルバイト    | 10  | 3.6%   |     |    |
| 非常勤      | 13  | 4.6%   |     |    |
| 嘱託       | 9   | 3.2%   |     |    |
| 無職       | 60  | 21.4%  |     | 60 |
| その他      | 10  | 3.6%   |     | 10 |
| 合計       | 280 | 100.0% | 280 |    |

表2は、相談者の雇用形態別の人数及びその割合である。

正社員が最も多く、38名で13.6%、短時間パート、フルタイムパートが33名で11.8%である。

正規、非正規別で見ると、正規社員42名に対し、非正規社員は131名で、3倍以上が非正規社員の相談である。



### (3) 相談者の職種

| 職種                 | 人数  | 割合    |
|--------------------|-----|-------|
| 未回答                | 105 | 37.5% |
| 事務職(一般)            | 60  | 21.4% |
| 事務職(総合)            | 4   | 1.4%  |
| 営業職                | 0   | 0%    |
| 管理職                | 1   | 0.4%  |
| 専門・技術職             | 37  | 13.2% |
| 教員                 | 2   | 0.7%  |
| 接客・販売              | 22  | 7.9%  |
| 現場(工場・現場作業、配送、清掃等) | 29  | 10.4% |
| その他                | 20  | 7.1%  |
| 合計                 | 280 | 100%  |

表 2

表 3 は、相談者の職種別の人数及びその割合である。

相談者の職種で最も多いのは事務職(一般)の60名で21.4%であり、2番目に多いのが専門・技術職の37名で13.2%、3番目に多いのが現場(工場・現場作業、配送、清掃等)で、29名、10.4%である。

### (4) 相談者の勤続年数

| 勤続年数       | 人数  | 割合    |
|------------|-----|-------|
| 未回答        | 105 | 37.5% |
| 1年未満       | 38  | 13.6% |
| 1年以上5年未満   | 78  | 27.9% |
| 5年以上10年未満  | 25  | 8.9%  |
| 10年以上20年未満 | 26  | 9.3%  |
| 20年以上30年未満 | 8   | 2.9%  |
| 30年以上      | 0   | 0.0%  |
| 合計         | 280 | 100%  |

表 3

表 4 は、相談者の勤続年数の人数とその割合を表したものである。

勤続年数は、1~5年未満が78名、27.9%で最も多く、2番目に多いのが38名、13.6%の1年未満であり、4割が5年未満の相談者である。

### (5) 相談内容

表 5 は、相談者の相談内容を分類したものである。

最も多いのは、「その他」の69名で24.6%2番目に多いのが「その他の人間関係」の49名、17.5%である。「その他」には、就職や転職活動、退職するかどうか、今後の仕事・生き方、履歴書の書き方、職業訓練、夫や子ども等との家族との関係や家族の心配、近所トラブル、医療機関との関係も含めた健康問題など様々な相談が寄せられている。

相談内容については、2021年と2012年からの10年間の比較してみた。いわゆる「パワーハラスメント」に属する暴言、暴力、仕事干し、仕事荷重、無視、いじめその他の相談が10年間の平均は13.8%であったが、2021年は6.8%と減少している。2020年6月からは大企

業、2022年4月からは中小企業も含めて「パワーハラスメント防止法（労働施策総合推進法30条の2）」が施行されることになり、行政機関での相談がしやすくなったことが、相談者の減少につながっているのだろうか。

| 相談内容          | 2021年 | 10年間 | 2021年 |       | 10年間 |       |
|---------------|-------|------|-------|-------|------|-------|
|               |       |      | 人数    | 割合    | 人数   | 割合    |
| 未回答           | 57    | 211  | 57    | 20.4% | 211  | 6.1%  |
| 暴言            | 9     | 172  | 19    | 6.8%  | 477  | 13.8% |
| 暴力            |       | 4    |       |       |      |       |
| 仕事干し          |       | 22   |       |       |      |       |
| 仕事過重          |       | 48   |       |       |      |       |
| 無視            | 1     | 38   |       |       |      |       |
| いじめその他        | 9     | 193  |       |       |      |       |
| セクハラ          | 12    | 187  | 12    | 4.3%  | 187  | 5.4%  |
| その他人間関係       | 49    | 682  | 49    | 17.5% | 682  | 19.8% |
| 解雇・雇い止め       | 8     | 151  | 8     | 2.9%  | 151  | 4.4%  |
| 退職勧奨          | 3     | 41   | 3     |       | 41   |       |
| 退職できない        | 0     | 29   | 0     |       | 29   |       |
| 倒産・閉鎖         | 2     | 4    | 0     |       | 4    |       |
| 雇用保険          | 0     | 15   | 0     |       | 15   |       |
| 偽装請負          | 0     | 3    | 0     |       | 3    |       |
| 雇用不安          | 6     | 136  | 6     |       | 136  |       |
| その他雇用関係       | 14    | 148  | 14    | 5.0%  | 148  | 4.3%  |
| 長時間労働         | 1     | 26   | 1     |       | 26   |       |
| サービス残業        | 2     | 29   | 2     |       | 29   |       |
| 有給休暇          | 1     | 37   | 1     |       | 37   |       |
| その他労働時間・休日    | 2     | 44   | 2     |       | 44   |       |
| 減給            | 2     | 16   | 14    | 5.0%  | 144  | 4.2%  |
| 時間・休日の変更      | 4     | 35   |       |       |      |       |
| 職務の変更         | 1     | 22   |       |       |      |       |
| 雇用形態の変更       | 2     | 20   |       |       |      |       |
| 配転・転勤         | 1     | 21   |       |       |      |       |
| その他不利益変更      | 4     | 30   |       |       |      |       |
| 出産・育児         | 4     | 45   | 4     |       | 45   |       |
| 病気・休職         | 2     | 62   | 2     |       | 62   |       |
| 社会保険(年金・健康保険) | 0     | 8    | 0     |       | 8    |       |

|            |     |      |     |        |      |        |
|------------|-----|------|-----|--------|------|--------|
| その他福利厚生    | 0   | 7    | 0   |        | 7    |        |
| 賃金格差       | 2   | 17   | 2   |        | 17   |        |
| 低賃金        |     | 19   | 0   |        | 19   |        |
| 仕事内容       | 9   | 153  | 9   | 3.2%   | 153  | 4.4%   |
| 労災・安全・衛生   | 4   | 47   | 4   |        | 47   |        |
| ホットラインについて | 0   | 7    | 0   |        | 7    |        |
| 労組について     | 0   | 4    | 0   |        | 4    |        |
| 役所について     | 0   | 3    | 0   |        | 3    |        |
| 連絡先等の問い合わせ | 0   | 4    | 0   |        | 4    |        |
| その他        | 69  | 711  | 69  | 24.6%  | 711  | 20.6%  |
| 合計         | 280 | 3451 | 280 | 100.0% | 3451 | 100.0% |

表 4

#### (6) ホットラインをどこで知ったか？

| 情報元     | 人数  | 割合    |
|---------|-----|-------|
| 未回答     | 107 | 38.2% |
| その他新聞   | 1   |       |
| インターネット | 70  | 25.0% |
| 知人      | 4   | 1.4%  |
| その他     | 98  | 35.0% |
| 合計      | 280 |       |

表 5

表5は、ホットラインの情報を「どこで知ったか」である。

最も多いのが、98名、35%のその他である。その他には、男女共同参画センターなどの行政機関の窓口や行政機関に設置している「ホットラインカード」、講座での情報提供などがある。

また、インターネットで知ったという人も70名、25%で多いので、今後、SNS等を活用して広報していくかが鍵となると考える。

知人を通して知った人の割合が減っていることは、心を留めておく必要のある課題である。

## 定期大会 | 2022年2月27日(日) 14時～ zoom開催

活動報告をした後、運営委員会から小グループ制になって

うまくいった所、うまくいっていない所をあげて話し合いたいです。

後日、詳細をご案内します。参加お待ちしております。

2021年度 入会者11名 退会5名

正会員328人、サポート会員62人 計390人

---

# 相談者の話を聞くことを大切にする

佐崎和子

「はたらく女性の全国センター」の設立時からの会員です。

「はたらく女性の全国ホットライン」がスタートした時、福岡でも相談電話を是非やりたいと考え、福岡の「ワーキング・ウィメンズ・ヴォイス」としても電話相談を開始しました。

スタート時には、はたらく女性の全国センターの相談員トレーニングの講師であるカウンセラーの高山直子さんに、助成金を活用して福岡に来ていただき、電話相談のトレーニングを実施し、労働法については、弁護士さんを講師に勉強会を開催しました。その後も福岡では、労働法の勉強会を行っていましたが、最近はほとんど実施できていません。

現在、福岡の担当者は6名で、相談日は2名の担当で行い、担当回数は原則平等です。現在は月3回ホットラインの担当をしていますので、ほぼ毎月1回の担当があります。事前に自分の都合の良い日、悪い日を申し出て、それに基づいて電話相談の担当日が決定されます。相談担当日の決定後に予定が入ったりして担当ができなくなった時は、個人的にお願いして担当を交代してもらうことになりましたが、誰も交代してくれなくて困ったということはありません。

現在、福岡労働局の「総合労働相談コーナー」の相談員として、仕事としても労働相談をしています。この仕事の応募時には、「はたらく女性の全国ホットライン」の経験をアピールして応募しました。(社会保険労務士の資格もあります。)

いつまでできるかわかりませんが、できる限り長く相談を通じて女性が働くこと・生活することをサポートしたいと思っていますので、現在も「相談(人の話を聞く)トレーニング」は、続けています。相談を受けると、どうしても「何か良いことを言ってあげたい」「アドバイスをしたい」という気持ちが湧いてきますが、それより、相談者の方の話をしっかり聞くことがより大事なのではないかと、学ぶ中でより強く思うようになりました。

コロナ下で、人と接することが少なく、自ずと話をする機会も減っていますので、誰かに話を聞いて欲しいのではないかと、最近の相談では以前より感じることもあります。そのような相談者の気持ちに思いを馳せながら、これからも電話相談を対応していきたいと思えます。

# ホットライン

とんちゃん

ホットラインを2017年の春ぐらいから初めました。もう今度の春で、5年目に突入することとこの原稿を書いていて気づきました。

5年目と言っても、頻度としては月に一度ぐらいの低頻度です。当番に入らない月もあるので、本当に細々と参加させて貰っています。毎回2～3人で電話の前に座りプルルルル…と電話が鳴るのを待っています。相談内容は多岐にわたり、労働問題から生きづらい世の中や働くことの大変な話まで様々です。

初めて電話を取ったときは、緊張して適当な相槌しか出来なかったと思うのですが、相手の方は人に話して整理が出来たのか結論を出して解決して電話を切りました。

あれ？私、必要？と思ってしまったのと、相手の方が満足してお話を終了した様だったのでホットしたのを覚えています。

最初は必要ないかなと思いましたが、何度か電話に出ているうちに、人と話す事が重要なのだと思いました。それに皆が、自分で結論出して解決できるわけではないし。特にコロナ過が続くこの2年あまりは、私も色々な人と話せて助けられたのだと思っています。

電話で声だけですが、全国でバラバラに生きている人と一時でも繋がって日常は一人でもホットラインを通してみんなで一緒に生きていきたいと思っています。

## 小グループ活動の 連絡先

### 運営系小グループ

- 連絡調整 .....office@acw2.org
- 事務・会計 .....Administration@acw2.org
- かもす通信・広報 .....tsushin@acw2.org

### 事務系小グループ

- ホットライン .....hotline@acw2.org
- 講座など共育 .....Education@acw2.org

### 会員相互交流グループ

- 読書会 .....bookdiscussion1@acw2.org
- 性と自分を語る会 .....sexushariti@acw2.org
- ちまちま手芸の会 .....join@acw2.org  
(他は準備中)

小グループ活動への参加や設立ほか、さまざまなご相談は、  
連絡調整グループの佐野 (office@acw2.org) までご連絡ください。

---

# 事務グループの活動を紹介します♪

M.M.

私は、2020年度の相談員トレーニング講座をきっかけに会員になりました。講座を修了して、2021年3月にホットラインを見学。4月からホットラインの相談員になりました。6か月を過ぎた頃、相談でお世話になっている伊藤みどりさんから、「事務の仕事をやってみない？」と声をかけていただきました。「事務の仕事は学生時代のアルバイトと、職場で給料計算をしているくらいですができますか？」という感じで事務グループに入りました。

9月30日13時から仕事開始。伊藤さんの指示を受けて、事務所の家賃・電気代・電話料金等の支払いに銀行に行ったり、事務所のビル1階のコンビニに行ったりしてから、振替伝票や入金・出金伝票に記入。私は不慣れなので、すでにまとめられた伝票をお手本にしながら書きました。書き終わったら、会計ソフトに入力していきます。会計ソフトを開いたのは初めてで、入力したものが綺麗に表になって出てくるのに感動しました。数字を間違えないように注意してポツポツ入れ、最後に現金・郵便振替・普通預金の会計ソフトの数字と残高書類等の数字が合うと、ヤッターと満足感でいっぱいになりました。

10月15日13時から仕事開始。コンビニに支払いに行ってから、伝票記入、会計ソフトに入力。その後会員の皆様に会費依頼文(伊藤さんがすでに印刷済み)と振込用紙をセットして封筒に入れ、切手を貼る作業を行いました。ふたりで黙々とその作業をして、その日は18時から21時までホットラインの相談もあり、よく働きました。帰りに封筒の束を事務所ビルから出て10メートルくらいのところにあるポストに投函して、「やれやれ」と「よれよれ」が混じた日になりました。

11月5日13時、この日は、銀行や郵便局に会員の皆様からの会費が、これまでの3倍くらいあり、お送りしたお手紙に伝えてくださる会員の皆様に感謝でいっぱいになりました。寄付もあり、ACW2は、多くの方に支えられていると嬉しくなりました。会員の皆様の入会・退会等の管理は、伊藤さんがしてくださっています。

現在、毎月2回が事務作業の日です。数字が合うと何ともいえない満足感を味わえます。事務グループにご興味のある方、募集中です。

---

# かもすワークショップに参加して

マキ

最近 ACW2 に入会しました。かもす通信を通じて会員の方と繋がることができれば幸いと思い、寄稿してみます。

2021 年 10 月からはじまったかもすワークショップで、ACW2 に入会したきっかけや、どんな期待を持っていたかを共有する場面がありました。様々な方が集っているグループであることが感じられました。

私はというと、自分の結婚、出産、育児をきっかけに、〈生きづらい、あっちにいてもこっちにいてもつらい、袋小路に迷い込んだようだ〉という思いに襲われて、そこからフェミニズムや女性の労働問題を自分のこととして考えるようになりました。1 人で考えたり勉強したりたかたかたりするのは孤独で、他者とのつながりがほしいなと考えていて、出会ったのが ACW2 です。

他者とのつながりを求めているのですが、コミュニケーションの苦手さも自覚があります。立場や考えが違う他者と、相手も自分も尊重しながら関係を築くことがどうしたらできるのかな、私には難しいんだよな…と感じていました。

「対話の土壌をかもす」ということを大事にしている ACW2 を見つけて、私でも共に学ばせてもらえるかなと思って入会しました。

現在月 1 回参加しているかもすワークショップは参加者の皆さんと穏やかに話し合えて、安心できる時間になっています。今後も少しずつ活動に参加します。たのしみです。

---

## 小グループのための『かもすワークショップ』報告

昨年 10 月より月 1 回土曜日の午後に、小グループのための『かもすワークショップ』を 10 名程度で開催しています。

新年 1 月のテーマは、「同じ組織で活動する会員を小グループに組織するための効果的な方法を学ぶ」でした。

「ミュートでしりとり」のアイスブレイクの後、仲良くなるために大切なことや、上手いかなかった経験などを共有し、現在進行形で困っていることなどを話し合いました。それらをふまえ、下記を読み合わせ、1対1の対話の重要性について整理しました。

### 1対1の対話の重要性

人々を集めてACW2に加入してもらうために、その人たちと1対1で会うことは何よりも大事です。親睦会や小グループは、だいたい組織で活発に活動している人による個人的な出会いから始まり、時間を経て小グループに発展していきます。

- 1対1で会って話せば、
- ◆個々人に対しての理解を深めることができます。
  - ◆会う人について、より深く理解でき、親密になることができます。
  - ◆ACW2の中での不満や活動に対する考えを理解することができます。
  - ◆ACW2に対する人々の意見を一番正確に理解することができます。
  - ◆1人ひとりが参加することが大事だということをうまく伝えられます。
  - ◆会員1人ひとりの可能性を見出すことができます。
  - ◆大勢の人がいる場所で積極的に発言することができない人にも、自分の意思を示す機会を持つことができます。
  - ◆相手にとって、「自分が尊重されている」と感じることができます。
  - ◆個々人について把握ができるので1人ひとりの可能性を伸ばすような機会を提供することができます。

小グループを作るためにまずしなければならないことは、会員同士が仲良くなることです。人は自分と親しい人と会って話すことが好きです。仲のいい人同士だとグループはよりうまくいきます。

そこで、「小グループを成功させるためには、まず人々と仲良くなることである」というコンセプトのもと、3人ずつのブレイクアウトグループで興味のあることを話し合いました。

そして最期の振り返りでは、自然にこれからのことが語られました。

「新しい読書会を始めたい、同じような本に興味のある人を探すにはどうしたら良いか」「小グループの立ち上げには調整役が必要なので、ぜひ相談して欲しい」「映画鑑賞のグループに興味がある」「地域の会員を訪ねて、一緒に名所めぐり」など、今年から始められそうなことばかりでした。

次回2月は、いよいよ最終回です。具体化に向けて、1歩踏み出せるワークにしていきたいと思います。

(ファシリテーター担当：おーやん)

---

# “はむねっと” 試行錯誤で進めています

瀬山紀子 (ACW2 会員・はむねっと副代表)

「私たちの声を聞いてもらえる場所ができてうれしい」、「はむねっとが立ち上がり、本当に嬉しいです。異動する職員より専門性を持ちながら不安定な働き方をしている方々の声をぜひ拾ってください」、「大学卒業後、ずっと非正規で働いてきました。自己責任だと諦めてきましたが、疑問の声を上げてもいいと思えました」、「声を上げてくださってありがとうございます！この問題が、多くの人に届くような活動を願っています」。

昨年、公務非正規女性全国ネットワーク (通称・はむねっと = 公という文字を上からカタカナで読んで「ハ」「ム」) が実施したアンケートには、全国で非正規公務員として働くひとたちから、たくさんの方が届きました。はじめに紹介した声はその一部です。インターネット調査期間中、連日寄せられる声を読みながら、こうした声を届ける場が求められていたのだなということを強く感じました (※調査結果は、はむねっとのホームページ :<http://www.nrwwu.com> 上で公表しています。是非お読みください)。調査に様々なかたちでご協力いただいたみなさまに感謝します！

はむねっとが立ち上がったのが、昨年 (2021) 3 月。その後、ゴールデンウィークをはさむ 4 月から 6 月にかけてインターネット調査を実施。7 月はじめに調査をまとめて記者会見を開き、その後も、追加のインタビュー調査、さまざまな集会での発言、メディアでの発信、国への要望書の提出、語り場の開催など、あれこれの活動を進めてきました。

コロナ禍のなかでスタートした活動だったこともあり、運営メンバー同士のやりとりも、ほぼ、オンラインが中心。まだ直接会ったのは数回という人や、直接は顔を合わせていないというメンバーもいる中で、なんとか活動を重ねてきています。メールの量があまりに多くてとてもついていけないという声や、意思決定の仕方に難しさがあったり、いろいろと異例づくめですが、活動を進めていこうというメンバーと試行錯誤を続けています。

ACW2 に連なる「公務非正規」のみなさま、是非、はむねっとの活動にご参加ください。はむねっとでは、情報交換用のメーリングリストを作っています。未登録の方は是非登録を。

問合せ先 : [hiseiki.koumu@gmail.com](mailto:hiseiki.koumu@gmail.com)

---

# フリーライターAさんの裁判が大詰め

## 性被害者の心理を考慮した判決を求めて

杉村和美

ここ数年、「雇われない働き方」が注目されています。私が働く出版業界では、ライター、デザイナー、イラストレーター、校正者、編集者など多数のフリーランスが働いています。「雇われない働き方」と一口に言っても、その働き方は多様です。しかし共通するのは、労働法は適用されず、労災補償や失業給付といったセーフティネットもない非常に不安定な働き方であるということです。私は出版フリーランスのユニオン・出版ネッツでトラブル相談窓口の相談員として活動しています。相談内容で最も多いのは報酬不払いですが、一方的な仕事の打ち切り（契約解除や不更新）やハラスメントも多いです。

出版ネッツでは、フリーライター A さんの裁判を支援しています。A さん（女性、20代）は、仕事（Web 運営・記事執筆）を請けていたエステサロン B 社の経営者 C 氏（男性、施術者）から、エステ体験記事を書くための施術中に悪質な性被害を受けました。その後も打ち合わせの際に、C 氏は A さんに抱きつく、性的関係を求めるなどのセクハラを行いました。それをかわしながら仕事を続けていると、今度は「記事の質が低い」などと叱責するようになり、ついに A さんは体調を崩し、後日うつ状態と診断されました。しかも、報酬は 1 円も支払われなかったのです。2020 年 7 月 13 日、A さんは B 社と C 氏を相手取り、東京地裁に提訴。未払い報酬の支払いと、セクハラ・パワハラへの慰謝料を請求しています。

2021 年 11 月には証人尋問が行われました。報酬未払いについては LINE などの記録があるのですが、セクハラ・パワハラは、録音や目撃証人などはなく、本人の証言が唯一の証拠です。証人尋問では、セクハラ・パワハラの実事があったのかどうか、性的被害に遭いながらもなぜ A さんは仕事を続けたのかが焦点になりました。A さんへのセクハラ・パワハラは、発注者とフリーランスの間の力関係の差を背景とした地位・関係性を利用して行われました。このようなケースでは、被害者が明確な抵抗を行うのは難しいと言われています。証人尋問で A さんは当時の心境を、「やめてとは言えませんでした。被告の機嫌を損ねるのが怖かったのです」と述べています。

裁判は、2 月に最終口頭弁論が開かれ、5 月には判決が出ると言われています。あと数カ月、裁判官にも届くような形で運動を進めていきたいと考えています。

※フリーライターAさんの裁判を支援する会のブログを立ち上げています。「フリーライターAさんの裁判」で検索してください。

---

# 「子ども手当を、生んだ女性が受け取れる仕組みに」変えよう

その外国籍の女性は、日本国籍の男性と結婚し子どもを生んだが、夫のDVで別居した。家裁の調停で女性に親権が決まり離婚した。夫に給付されていた児童手当を自分が受け取るため、女性は役所に離婚を証明する戸籍証明を提出しなければならない。その同行に付き添ったのが、話を聞くきっかけだった。彼女は、日本でなぜ児童手当を男性(父親)が受け取るのか、納得できないようだった。「私の国では子どもを生んだ女性が子どもの手当を受け取ります」と彼女は言った。「そうだよね！」私は、即座に彼女に反応した。彼女は「産んだ女性が受け取るのは当然です、9か月もお腹で育てて大変な思いをして産んだのですから」そうなのだ、生んだ女性の口座に子ども手当が振り込まれれば、結婚の有無や配偶者の変更等に影響されずに子ども手当や給付を受け取れるのだ。実に分かりやすいと思う。

多くの場合、子ども連れて別居した妻(母)は、離婚申し立て・離婚成立まで夫に給付される子ども手当を受け取ることができない。彼女は、離婚後の戸籍証明を区役所に提出して、手当の振込先を自分の口座に移してもらう手続きをする必要がある。

「日本はなぜ、男の人に子ども手当を振り込むのですか。」問われて、直球がきた、とおもった。「えっと、日本は『世帯主』というのがあって、大半が男性で子ども手当でも世帯主に振り込まれることになって…」と解説しながら、つまらないことを言う自分がいた。

行政的にいえば、子どもの養育は家族単位とするもので、家族を構成しているのは父と母と子ども。世帯主とは主な生計者であって、大半は夫となる。夫が稼いで家族を養うのだから、世帯主に給付することは何ら問題ない、ということになる。こうした制度運営が税、社会保障で長くあたりまえに行われてきた。

だが、こうした父親を主たる生計維持者と前提にした給付制度は改める時期ではないか。

初めから、子ども手当の振込先を母親にすれば、面倒な手続きはしなくてもよいのだ。夫と別離を選んだ妻の負担を減らすだけでなく、役所の事務の効率化になるはずだ。新たな予算は必要ない。

一方、子ども手当はあくまで子育て世帯に給付するものだから世帯主に振り込むことは当

然、とする主張も根強いだらう。この世帯単位という考え方が我が国の制度設計の基本になっている。いまだに女性は夫に扶養してもらえばいい、家族に責任を持つのは夫なのだという考えが、日本では支配的だ。しかし、今日、こうした考え方は子どもも女性も幸せにしないことが露呈している。コロナ関連の給付金支給をめぐる、児童手当の給付金支給者(多くは父親)ではないDV等で避難を与儀なくされた母親は、煩雑な手続きに悩まされた。せめて、世帯主義を直ちに变えることが困難なら、子ども手当での申請段階で実際に子どもを養育している女性(妻)が容易に受給できるようアクセスを容易にすべきだ。

「子ども手当を母親が受け取れるようにする」ことは、実に分かりやすい、シンプルな要求だ。「主たる生計者」を外して、選択制にするだけなのだ。児童手当の受給要件から「主たる生計者」を外すことは、女性へのリスペクトであり、子どもにも優しい社会になると私は思っている。

誰と、どのように、いつ ACTION していくのか。この日本に生きているものとして問われている。

2022・1 記 武岡縫子

---

## 「負けるは恥だが、役に立つ？」

北 明美

私の今年のモットーは、発言の機会を与えられた時には逃げないということです。というわけで、ACW2 に具体的貢献をしてこなかった人間が新年第一号に登場していいのかと不安に思いながらも、図々しくこの場に参上する次第です。

このことを書いたりしゃべったりするのは初めてなのですが、ACW2 で長く代表等を務めてこられた伊藤みどりさんと私が最初にお会いしたのは 20 数年前、夏の「女性労働研究セミナー」で私が報告者を務めた時のことでした。40 代という年齢にして初めて大学に「正式に」就職した私は、「いいトシ? でありながら、研究者の駆け出し」であることへのコンプレックスがあり、その当日の報告もやたらまわりくどく、言わずもがなの言い訳も多くといった具合で、参加者にとってはとても退屈だったようです。かなりのかたが途中で居眠りを始めたようですが、私はそれさえ気づかず、いかに自分の話をとり繕うかだけを考えていました。

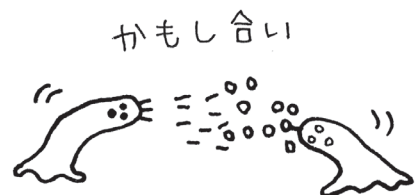
このセミナーは合宿形式でしたので、その夜はたしか熱海の旅館で宴会になりました。ふと気づくといつのまにか私は伊藤さんの近くに座っていました。すると、それまで他のかたに囲まれていた伊藤さんが、くると私の方に向き直って、開口一番「北さん、もっとちゃんとしゃべりなさいよ」と言ったのです。初対面だったと思うのですが、それが出会いの第一声でした。でもすぐに続けて、「せっかくだいいことを言ってるんだから」とも付け加えてくれました。もしかしたら、そのあともう一度、今度は順番を逆にして、「せっかくだいいことを言ってるんだから、もっと言いたいことをはっきり言いなさいよ」と繰り返してくれた気がします。

伊藤さんのこの言葉の厳しさと温かさの両方というか、とくに「せっかくだいいことを言ってるんだから…」と付け加えて言ってもらえたことがとてもありがたく、今でも感謝とともに思い出します。実際、私はこれがきっかけで反省しました。自分の不十分さや落ち度を指摘されたくない、ひとに批判されたくないという自意識を優先させ、聞く側の負担を考えていなかった自分のエゴイズムを自覚したのです。

話をもどって、では大学教員になる前の私は何をしていたかと言えば、小規模な労使紛争をきっかけに、自身が原告・申立人になって、裁判や労働委員会でいわゆる「ひとり争議」をやっていました。1980年代後半から90年代前半のことですが、当時はまだそうした形は珍しく、ほとんど何もかも未経験のことばかりでした。また、そのなかで他の当事者の労働争議や裁判を支援する側に立つ経験もしました。

私自身の争議結果は二勝三敗で、最終的には私がこれ以上の争いを放棄する、相手方もそれ以上争わないと双方合意する形での中断となったのですが、この結末よりも心に重く残ったのは、支援する側にも支援される側にもそれぞれの思いいれと、それらがすれ違う軋轢があり、相互の理想的な関係づくりはけっして簡単ではないということでした。

ただ良くしたもので、この期間の経験はその後勤め先の大学でハラスメント対策の構築にかかわるようになった時に、間違いなく生きました。職業生活上の空白、研究者としての回り道としか感じられず、人生の損失とさえ時には思っていた経験が、結局もしかしたらすべてに役立つのだと今は考えています。



---

# 映画と本の楽しみ方？—あるSF作品を通して見えてくる風景

足立にわか

昨年末に、2021年10月に日本で公開された「DUNE/ デューン 砂の惑星」を観た。有名なSF小説を映像化したこの映画についてはご存知の方も多いと思う。簡単に内容を紹介すると、砂の惑星アラキスを治めることとなった公爵家の跡継ぎである主人公および惑星の住民である部族フレメンと、宇宙帝国の皇帝一派との、アラキスの砂漠でのみ採取される特殊な香料メランジをめぐる攻防戦を描いたものである。1965年に上梓されたこのSF小説は、「スター・ウォーズ」や宮崎駿の「風の谷のナウシカ」など後のSF作品に大きな影響を与えたと言われている。

この映画に触発されてつい原作にも手を伸ばしてしまい、移動時間など合間を縫って一気に読み終えてしまった。この原作には、本筋のストーリーの他、スピンオフ的にアラキスの緑化という壮大な計画を試みる、初代惑星生態学者 P. カインズを主人公とした短編が附録として掲載されている。パラパラとその物語を流し読みしていく中で、P. カインズが、(本編で同じく生態学者として登場する)息子リエト・カインズを自分の後継者とするべく専門知識を注ぎ込み、「徹底的に訓練」したと書かれている文章にふと目が留まった。

さてここからがようやく本題。この短編を読みながら気がついたのが、リエト・カインズの娘、つまり初代惑星生態学者 P. カインズの孫娘の描かれ方だった。本編ストーリーの中で彼女は、アラキスの部族フレメンの戦闘員の一人であり、主人公(アラキス領主となった公爵の後継者ポール)と出会った後に彼の恋人/側室となる役割が与えられている。本編を読み進めるうちに彼女がリエト・カインズの娘だと分かるのだが、そうであるならば、彼自身が父親にそうされたように、彼女が父親であるリエト・カインズに後継者として育てられる機会が与えられていてもおかしくない。しかし、父と息子の関係と異なり、父と娘との関係は語られることがない。

つまり、1920年生まれ of 著者、SF界の巨匠フランク・ハーバートにとって娘(女)はそういう存在だったのだなと、ストーリーに没頭して楽しんでいたところから、「男性主体」の物語と冷めた目で見ると自分に一気に引き戻された。そうした目で見ると、「砂の惑星」は、帝国主義・植民地主義、オリエンタリズムに潤色されたストーリーのようにも読める(異国情緒たっぷり

の辺境の地にある希少な資源を、皇帝に代わり治めるその土地の公爵がそれを集め上納し、その資源を巡り戦争となる)。そこにヒーローがいて、ヒロインが傍らに添えられる。重要な役割を担う女性は魔女のような存在として描かれてもいる(映画では何らかの配慮があったのか、リエト・カインズは女性が演じている)。

名著とされる作品が、しばしば「ある時代・文化・階級の(男性)視点」に立った世界を映し出していると指摘されて久しい。しかし、物語があまりに「ナチュラル」(そうあって当然、自然なことであるかのよう)に描かれているため、そのことに気づく視点を持たなければ、あるいは持っていたとしてもつい「ナチュラル」なものとして了解し、潜在的にそれを自分の視点として取り込んでしまうことは避けがたい。私自身、附録の短編を読むところまでは、本編で展開された物語に浸り純粋に楽しんでた。

少し話は飛ぶが、発達心理学の研究にこんな実験がある。一人の女/男のシルエットが描かれた二つの絵を幼児に見せ、用意された文章に合う絵を選択させるというものである<sup>1</sup>。結果では、5歳児くらいならそれぞれに「ふさわしい」文章を「正しく」(つまり偏見をもって)選ぶことが示された。女性には「弱い、優しい、何でも大切にする、情け深い、おとなしい、影響されやすい、情動的、情が深い」といった特性と結びつけ、男性には「乱暴、行動的、高慢、厳格、騒々しい、粗野な、残酷な、強い、攻撃的」という特性と結びつけるという<sup>2</sup>。

今日では、巧みに画面を操り、YouTubeの番組を一人で観ている幼児も珍しくないが、子どもが乳幼児期に触れる機会が圧倒的に多いメディアは絵本だろう。残念ながら、くり返し読み聞かせる人気の絵本の中にもステレオタイプに満ちているものが少なからずあるため(藤枝, 1983), 子どもたちが早々とジェンダー・ステレオタイプの使い手になるのは当然である。マンガやアニメも例外ではない。斎藤(2001)が示したように、大人によって子どもに伝えられる世界の有り様が男女でかくも違う(表1参照)。登場キャラクターやストーリーによって他者を何者であるかを学ぶだけでなく、そうした素材を材料として自分自身が何者であるかも学んでしまうのが非常に厄介なのである。幼い娘のために絵本を選ぶとき、そのことを念頭に置いていたため絵本選びに苦戦したことを思い出す。娘が小学生のとき、本棚に並べる「偉人伝」を選ぶ際も同様だった。

どうしてそこまで気を回すのか? 仏領の植民地でフランス人が使う教科書を用いてフラン

ス語で教育を受けてきたフランツ・ファノン  
は、国外で自分が白人としてではなく、無自覚に自分のものとしてきた白人目線で、自らも蔑みの眼差しを向けていた黒人として扱われることに大きな衝撃を受けたことを「黒い皮膚・白い仮面」で赤裸々に書き記している<sup>3</sup>。その姿は、多くの男性の手による物語、作品、理論をもとに、世界だけでなく、自分自身について学んできた / 学んでいる女性とも大きく重なるのである。

現在、娘が好んで（友人たちと語らうためという理由で）観ている TV ドラマをちらりと見ると、昭和時代から大して代わり映えしない

ジェンダー・ステレオタイプを伴いながら展開される物語が多々ある。そのことにうんざりして横から色々意見するものの、うるさがられて部屋の外に追い出されるか、親のいない間に視聴するという作戦に出られる。そこで、そんなつまらない番組を見ていないでこの SF 小説を読んでみたらと勧めたいものの、そこでも時代錯誤的なジェンダー・ステレオタイプが待っていることを思うと、そんな言葉を飲み込んでしまうのである。こうした SF 作品を無邪気に楽しむ機会すら男性に占有されているような気持ちになるが、批判的に読む楽しみがそこに加わっていると言われれば、それはそうなのかもしれない。

※1. 用意された文章はたとえば「この人たちのうちのどちらかひとりとは感情的です。よいことが起きると泣くし、何もかもがうまくいかないときも泣きます。どちらがどのように感情的な人でしょうか」といったジェンダー・ステレオタイプのなものである。  
 ※2. 別の研究では、2-3歳児ですらこうしたステレオタイプのな特性を「正しく」使いこなすようになっていることが示されている。  
 ※3. 「白人を内面化している黒人」の問題は、100分de名著シリーズ「フランツ・ファノン」の解説がわかりやすい。

参考文献

藤枝滯子. (1983). 絵本にみる女(の子)像・男(の子)像. 武田京子・木村栄・田中喜美子(編). 講座主婦1. 主婦はつくられる. 汐文社, pp.148-174.  
 ハーバート・F. (1965/2016). 酒井昭伸(訳) デューン 砂の惑星 [新訳版] (上), (中), (下) 早川書房.  
 小野正嗣. (2021). 100de名著 フランツ・ファノン—黒い皮膚・白い仮面 「私」に潜む差別の構造 NHK出版.  
 斎藤 美奈子. (2001). 紅一点論—アニメ・特撮・伝記のヒロイン像. ちくま文庫. (表\*\*)  
 Williams, J.E. and Best, D.L. 1982. Measuring sex stereotypes: A thirty-nation study. Beverly Hills, CA: Sage.

表1「男の子の国」と「女の子の国」のモデルケース

|        |        | 男の子の国の意匠       | 女の子の国の意匠     |
|--------|--------|----------------|--------------|
| 舞台の概要  | 物語の時間  | 未来             | 現在           |
|        | 活躍エリア  | 宇宙空間・都市・異空間    | 地域・町内・学校     |
|        | 時間感覚   | 四次元・ワープ        | 前世・輪廻転生      |
|        | 宇宙観    | 近代的・科学的        | 前近代的・占星術的    |
|        | 超能力の源  | 科学・テクノロジー      | 魔法・ESP       |
| 戦う体制   | 戦闘の目的  | 地球の防衛・人類の救済    | トラブルの解決・友の救済 |
|        | 戦闘の主体  | 地球防衛チーム・軍隊     | 個人・お友達グループ   |
|        | 戦闘相手=敵 | 地球征服をねらう悪の集団   | 主人公らを陥れる悪の集団 |
|        | 作戦司令部  | 最新設備つき軍事基地     | なし(個人の家)     |
|        | 武器の形状  | 銃器・スーパーメカなど    | バトン・アクセサリなど  |
|        | 武器の開発者 | 天才科学者・博士       | ××の精・女神      |
| 主人公の設定 | 出身地    | 宇宙の果て・異星など     | 夢の国・魔法の国など   |
|        | 年齢     | 青年=10代後半~20代の男 | 少女=10代前半の女   |
|        | 立場     | 地球防衛チームの隊員     | 小中学生         |
|        | 行動原理   | 人類愛            | 異性愛          |
|        | 変身の意味  | 武装・パワーアップ      | 化粧・ドレスアップ    |
|        | 変身グッズ  | 腕時計など          | コンパクトなど      |
| メッセージ  | 好きな言葉  | 正義             | 愛            |
|        | イデオロギー | ナショナリズム        | ロマンチック・ラブ    |

斎藤 (2001) より引用

---

# 素の自分で

きなこ

私は、自分と年齢の近い人と話すのが苦手だ。いつ頃からこういう気持ちが強くなったのかを思い返してみると、中学や高校あたりからだと思う。

クラスで発言力のある、派手な子が特に苦手だった。そういう派手な子たちから、鼻で笑われたり、コソコソ陰口を言われたことが当時はやたらと辛く、「自分は恥ずかしい存在だ」と強く感じるようになった。

高校で私の周りにいた子たちはあんまり目立たなかったけど、真面目でよく勉強し部活もやり、未来に向けて前向きに頑張っていた。私は勉強についていけない、運動も出来ない、というコンプレックスがあった。毎日、周りと比べてはひどく焦り、自分がほんとうにしたいことにも迷い、何をやるにも中途半端だった。髪を派手な色に染める、アルバイトをする、リストカットする、そういうことで周りの子たちと私は「違う」のだと思おうとしていた。

私はよく保健室に行った。家族のことやバイト先の好きな人のことや、自分は同性にも異性にも恋愛感情がわくようだということを保健室の先生に聞いてもらっていた。そういう話を、ほんとうは同じ世代の子たちとも分かち合ってみたかった。

もう卒業まであとわずかという時期に、保健室で、留年が決まった1学下の女の子や精神科に通っている女の子と友だちになった。保健室で私は、だいが素の自分を出せていたから、そんな私と話してくれたことが嬉しかった。私の卒業式のあと、同学年の友人たちではなく、彼女たちとお祝いにプリクラを撮りに行った。ただ、私が高校を卒業してからは、彼女たちともだんだん連絡は途絶えたが。

今でも、近い年齢の人と出会うと、焦る自分がある。私が何も持っていないと思われて、自分をバカにされるのではないかという気持ちを思い出して、とても怖くなるのだ。確かに学生ときの私は、とてもかっこ悪かった。自分を守ろうとして、ぎくしゃくしてばかりで。

ここまで書いてきたが、まだ私はこの渦中において、先に進めていない。でも、どこかで同じような悩みを抱えている同世代の人と出会えたら、とても怖いけど、素の自分で話してみたいと思っている。

## 活動報告10月～12月

---

|           |   |
|-----------|---|
| 10月5日(火)  | 会計、ホットライン東京   |
| 10月10日(日) | ホットライン福岡  |
| 10月15日(日) | 会計、ホットライン東京   |
| 10月20日(水) | ホットライン大阪  |
| 10月22日(木) | 手芸の会5人ZOOM  |
| 10月24日(土) | 第1回小グループ活動を進めるための「かもすワークショップ」12名<br>ホットライン福岡              |
| 10月25日(月) | ホットライン新潟  |
| 10月26日(月) | 28日(木) 29日(金) かもす通信印刷発送作業延べ6人                             |
| 10月28日(木) | 読書会「ケアするのは誰か？ 新しい民主主義のかたち」現代書館8人                          |
| 10月30日(土) | 会計ホットライン東京  |
| 11月5日(金)  | 会計ホットライン東京  |
| 11月10日(水) | ホットライン東京  |
| 11月14日(日) | ホットライン福岡  |
| 11月18日(木) | 会計  |
| 11月19日(金) | 介護労働者実行委員会厚生労働省、財務省と交渉                                    |
| 11月20日(土) | ホットライン東京  |
| 11月22日(月) | メトロコマース最高裁判決報告集会主催女闘労倶楽部<br>非正規公務問題瀬山紀子さん、ホームヘルパー国賠訴訟報告伊藤 |
| 11月23日(火) | 性と自分を話す会ZOOM4人  |
| 11月25日(木) | ホットライン大阪  |
| 11月26日(金) | ちまちま手芸の会リアル+ZOOM5人  |
| 11月27日(土) | 明治学院大学非正規雇用問題で伊藤報告  |
| 11月28日(日) | 第2回小グループ活動を進めるための「かもすワークショップ」9名<br>ホットライン福岡               |
| 11月30日(火) | ホットライン東京  |
| 12月2日(木)  | 読書会「ケアするのは誰か？ 新しい民主主義のかたち」現代書館8人                          |
| 12月3日(金)  | 会計  |
| 12月5日(日)  | ホットライン福岡  |
| 12月10日(金) | ホットライン 東京   |
| 12月12日(日) | ホットライン福岡  |
| 12月15日(水) | ホットライン大阪  |
| 12月17日(金) | 調整連絡会議  |
| 12月19日(日) | 第3回小グループ活動を進めるための「かもすワークショップ」8名                           |
| 12月20日(月) | ホットライン新潟  |
| 12月25日(土) | ホットライン東京  |
| 12月26日(日) | ホットライン福岡  |
| 12月28日(火) | 会計  |
| 12月30日(木) | ちまちま手芸の会リアル+ZOOM7人  |

# ひとことメッセージ



会員の方からいただいたひとことをご紹介します。

メッセージを寄せてくださった方々、ありがとうございました！

---

韓国ドラマが好きです！『スカイキャッスル』などなど、韓国ドラマ好きで集まって語りた  
いです！（あっこ）

---

雑誌『賃金と社会保障』（旬報社刊）にて現在、伊藤みどりさんが「歴史のごみ箱から拾い出  
す——私の女性労働運動史1970年代～2020年」を第8回まで連載なさっています。今、58  
歳の私の人生と被るところも多く、学ぶべきことも沢山書かれています。失敗も成功も過去  
を振り返ることで、更に進めることが出来ると考えています。

この雑誌自体は学術雑誌なため、2,000円を超えることから、是非、お近くの図書館で手に  
取ってみてください。どうしても最寄りで見当たらない場合は国立国会図書館から当該記事  
部分の複写サービスを受けられます。

遠隔複写サービス <https://www.ndl.go.jp/jp/copy/remote/index.html> を参考にお申し  
込みください。「複写料金」「発送事務手数料」「送料」はかかるとはいえ、全国どこにでも、  
コロナ禍でも自宅に欲しい記事を、複写をして送付してくれるのが非常に便利です。

2021.12.24記 渡辺志津子

---

NPO法人障害者地域生活支援センターの運営やスタッフに疑問を感じます。（まこと）

---

2020年5月から、ほぼ毎週月曜日の出勤前に

「朝たまご」というオンラインの対話会に参加しています。（ほりゅう）

---

コンサータ処方されて人生ガラッと変わりました！（ADHD子）

---



なんでもオンラインになってしまっていまいち慣れないし、  
画面に映る自分の姿にずっと違和感があります… (singforfuture)



自治体の男女共同参画センターで働いています。  
女性が生きやすい社会になるために発信し続けています。(ゆっきー)

いろんなこと、いっぱいあるけど、お日さまが照日も曇る日も、毎日を一生懸命生き抜きましょう！

2022年1月

今年3月で、2年間の「臨床傾聴士」認定のための学習が終わります。すべての講義・ワーク・実習がZoomで行われ、リアルに会うことないグリーフケアの可能性が広がったのではないかと感じています。今年は、この認定資格を活かせる活動ができたらと考えていますm(\_\_)m (おーやん)

ブラするのをやめました。かゆいのがおさまって快適。  
薄着の季節になったらどうしようかなー。(ひびき)

女性だけのエクササイズをするジムでの一コマ。

知り合いに誘われて入会した人のひと声が掲示されていた。入会動機を問われて「コロナで太ったので…」と目に入る。よく聞くセリフ、コロナで〇〇ができなくなった、とかくコロナのせいにする。大体ネガティブな事態の言い訳にされる。これも言い分は、こうだろう。「コロナで自粛になり家にこもりがちになって、ついついテレビ見てお菓子を食べ過ぎて、気がつけば体重オーバー。」太ったのは、運動以上にカロリーを取り過ぎた結果なのだ。これをコロナが読んだらどう思うだろう？！

冗談じゃない、あんたが太ったのはコロナのせいじゃない、ワタシが何をしたと！  
コロナの言い分に耳を傾けないと、収束はないのだろうな、とつぶやきながらジムを後にした一日。(マメ活)

## 編集後記

■介護職という仕事柄、濃厚接触せざるを得ず仕事以外に引きこもりがちで筋肉の減少、腰痛の悪化でインナーマッスルを始めました。脂肪が筋肉に変化するのがわかります。年始に私の親の年齢の女性労働研究者から電話をもらい長話しました。また「総評」時代の労働組合の大先輩で女性としては数少ない若い日の私を知る方からも励ましの言葉。正月明けに友人と2年ぶりに会食。人とリアルに会う事の貴重さを噛みしめています。予想もしなかった私の事に触れた記事にも思わず励まされました。(み)

■いろんな方が文章を寄せてくださって私はうれしいです。ひとことメッセージのアイデアを出してくださったおーやんさん、ありがとう!! 書いてくださったみなさんに感謝です。万一、掲載されていないという方がいらしたら [tsushin@acw2.org](mailto:tsushin@acw2.org) までご連絡ください。子ども手当の話。産んでいない子どもを育てている女性や、産んだ子どもを育てない女性、実際子どもを育てている男性、母との関係が複雑な子どもなど様々な方がいらっしゃることを武岡さんと相談したうえ掲載しました。建設的な話につながると嬉しいです。(さのよ)

はたらく女性の全国ホットライン **0120-787-956**

毎月 **5・10・15・20・25・30日** に **第2,第4日曜日**がプラス

平日 | 18:00~21:00 土日祝 | 14:00~17:00

会員のあなたもぜひご利用ください。毎月**5日**は**セクハラ集中相談日**

住所 | 〒110-0015 東京都台東区東上野1-20-6 丸幸ビル3階

TEL | 03-6803-0796 FAX | 03-6803-0726 e-mail | [office@acw2.org](mailto:office@acw2.org)

HP | <http://www.acw2.org> Twitter | <https://twitter.com/acw2org>

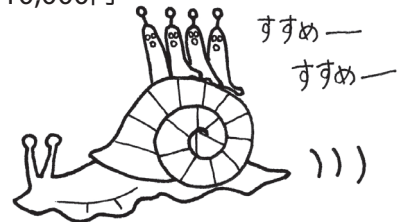
正会員年会費 | (性自認女性) 1口 3,000円 オプション5,000円 または 10,000円

生活困窮者2,000円

通信/サポート会員 | (男性も歓迎) 1口3,000円(何口でも可)

郵便振込 | 00130-1-669637

銀行口座 | 三井住友銀行 渋谷支店 普通8658522



感想など  
会員のおたよりを  
お待ちしております

こんな記事が読みたい、誰々さんに書いて欲しい、このテーマで書いてみたいなど、思い立ったらぜひ下記メールアドレス宛にご連絡いただけるとうれしいです。  
※編集メンバーも募集中。ご連絡お待ちしております →→→ [tsushin@acw2.org](mailto:tsushin@acw2.org)

2022年1月発行 第53号/編集・発行 はたらく女性の全国センターACW2

ホームページ、ツイッター、会員メーリングリストで毎日情報更新中